嵐のただ中で

シリーズ～神の国～
2013/3/10
大震災メモリアル礼拝

大震災から三年目に向けた祈り

- 被災者の心のケアのため,更に多くの支援者が与えられるように
- 被災者の一日も早い生活基盤確立のため
- 原発事故の早期解決・放射能被害の減少
- 地域教会の支援活動・宣教活動のため
- 支援活動を続けている教会や団体のため
- 大震災を通して日本国民の心が主に向かうように

＜日本福音同盟JEA＞

亘理教会からの祈りのリクエスト

- 宣教が更に進み,一人でも多くの地域の人々が救われるように＜昨年5人受洗！＞
- 救われた人たちが成長できるように
- 更に宣教し,奉仕する教会となれるように
- 震災の記憶が風化しないように
- 放射能汚染の現状が正しく報じられるように
- 放射能汚染による被害が拡大しないように

亘理キリスト教会

森 祐理コンサート
ともに生きる
3月10日(日)
10：00開演 無料
亘理聖書キリスト教会
●お問い合わせ
☎080-3179-0391

マルコによる福音書4章35～41節

その日の夕方になって、イエスは、「向こう岸に渡ろう」と弟子たちに言われた。そこで、弟子たちは群衆を後に残し、イエスを舟に乗せたまま漕ぎ出した。ほかの舟も一緒であった。激しい突風が起こり、舟は波をかぶって、水浸しになるほどであった。しかし、イエスは艫（とも）の方で枕をして眠っておられた。弟子たちはイエスを起こして、「先生、わたしたちがおぼれてもかまわないのですか」と言った。イエスは起き上がって、風を叱り、湖に、「黙れ。静まれ」と言われた。すると、風はやみ、すっかり凪になった。イエスは言われた。「なぜ怖がるのか。まだ信じないのか。」弟子たちは非常に恐れて、「いったい、この方はどなたなのだろう。風や湖さえも従うではないか」と互いに言った。

突然の嵐

- 日暮れが近づいていたが,イエス様の方から船を出すよう弟子たちに言われた
  - 夜の湖は危険なので本来は避けた
- 「激しい突風」が起こり,船が沈みそうになった
  - ガリラヤ湖は普段はとても穏やかな湖だが,しばしば予測不能の嵐が発生した
- 「しかし、イエスは艫(とも/船の後ろ)の方で枕をして眠っておられた」
  - 船は激しく揺れ,バシャバシャと水がかかっていた
  - “うとうと”していたのではない。熟睡しておられた
  - どんな枕だったのか?

静まった嵐

- イエス様を責めた弟子たち
  - 「先生、わたしたちがおぼれてもかまわないのですか」と言った
  - イエス様は大工,弟子たちは漁師のはずなのに…
- イエス様の一言で嵐は静まった!
  - 風を叱り、湖に、「黙れ。静まれ」と言われた。すると、風はやみ、すっかり凪になった
- イエス様は弟子が恐れ,信仰を失ったことをお責めになった
  - 「なぜ怖がるのか。まだ信じないのか。」

人生に訪れる突然の嵐

- 私たちの人生にも予期せぬ困難が起こる
  - 主に導きだと信じて歩んでいても
  - 自然災害・病気・経済的困難・人間関係トラブル
- そんな時，誰かを責めたり，神様に文句を言ったりしがちである
  - 人間はパニックに陥ると判断を誤りやすい
- 私たちの敵は「恐れ」と「不信仰」
  - どうなるか分からないという「恐れ」
  - 神様から見放されてしまったのではないかという「不信仰」

嵐のただ中で

- イエス様は私たちに一番近いところにおられ，「熟睡」しておられる
  - 私たちはイエス様と同じ船に乗っている（神の国）
  - イエス様は何も恐れず，何も疑わない
- 嵐に遭っても恐れる必要はない
  - 「しかし，イエスは艫の方で枕をして眠っておられた」
- 幸いなのは船が沈んだとしても「イエス様といっしょ」だということだ！
  - イエス様が嵐を静めて下さることではない

艫にいて下さるイエス様

- 神の国とはイエス様と共に旅をすること
  - イエス様は何があっても共にいて下さる
  - 「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」マタイ28:20
- イエス様は私たちのために命を捨ててるほどに，私たちを大切に思っておられる
  - 「友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない。」ヨハネ15:13
- あなたはイエス様をたたき起こしますか？

“ガリラヤ湖の嵐”　～レンブラント～